

令和5年度実施 全国学力・学習状況調査を終えて

令和5年4月、全国の第6学年児童を対象に、全国学力・学習状況調査が実施されました。今年度は、国語・算数科における調査でした。本校は、全国の平均正答率と比べ、国語科はそれを上回り、算数科でそれと同等である結果となりました。

国語科においては、「知識及び技能」の観点において、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の平均正答率が、全国よりも高い結果となりました。昨年度の教育課程を見直し、学習の下支えとなる基礎的・基本的な学力の向上と定着を図るため、チャレンジタイム（毎日、15分の枠で実施）において、国語科における語彙力の向上に向け、教員が共通実践した結果であることが伺えます。

また、「思考力、判断力、表現力等」の観点においては、例年に引き続き、「読むこと」の平均正答率が全国よりも高い結果となりました。毎日の読書タイムの確実な実施や、読書貯金カードを活用した読書の推進等、「チーム学校」として、組織的及び継続的に取り組んだ成果であることが伺えます。

反面、「知識及び理解」の観点においては、「情報の扱いに関する事項」で、全国の平均正答率を若干下回っており、「与えられた情報と情報との関連付けの仕方」「因果関係について、情報と情報との関係について理解」といった力を育むことの必要性が伺えました。今後は、学習指導を進める中で、「与えられた情報が、どの情報に関連付けられているのか。」「原因と結果を示す情報はどれに当たるのか。」といった情報収集能力及び情報活用能力の向上に向けた発問の工夫に重点を置き、教員が一丸となって共通実践を進めていく環境を整備していきます。

算数科においては、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の観点共に、全国の平均正答率よりも、本校が上回る結果となりました。また、学習指導要領の領域である「数と計算」「変化と関係」「データの活用」に視点を向けると、それらの全てが、全国の平均正答率より高いことがわかりました。

反面、「図形」については、全国の平均正答率を若干下回る結果となりました。そこで、「低・中学年までは、具体物を積極的に扱った環境を整備する中で児童の視覚を刺激するような授業改善を図っていくこと」、「高学年からは、デジタル教科書やタブレット等の意図的な活用を進める中で、具体化から抽象化へと授業改善を図ること」の2点を推進し、課題の克服に向けて取り組んでいきます。さらに、校内外の研修を通して、児童にとって、有意的に図形の概念を構築していくことを教員同士が共通理解した上で、研修部を中心に、学習環境の整備を図っていくことを検討していきます。

また、算数科においても、チャレンジタイムを通して、数学的な見方や考え方を育むために、基礎的・基本的な学力の向上に励んでいきます。

今回の結果を踏まえて、全学年で子どもたちの学力向上に向けて進めてまいります。